

陸前高田市の米崎小3年の米沢多恵さんは、熱心に防災の学びを深めている。中学生以上を対象とした本年度の市防災マイスター養成講座を受講し、別枠のキッズマイスターに認定された。次の目標は防災介助士の資格取得。生後1カ月で東日本大震災が発生し、祖父母らを亡くした米沢さんは「防災をしっかりと学べば、自分の命も周りの人の命も助けることができる」と意気込む。

命守る防災 小3率先

米沢さんは父祐一さん(55)と一緒に昨年5〜12月の講座を受講。避難所の運営方法や自主防災組織の活動などを学び、救命講習にも取り組んだ。閉講式で別枠の認定書を受けた。

地震が起きる仕組みや震度に興味があつたという米

陸前高田の 米沢多恵さん

沢さん。祐一さんが2018年度に受講したこともあり、一緒に参加した。内容を難しく感じた時もあったが、「学んだことを周りのみんなに教えたい」と熱心に講座に励んだ。

冬休みの自由研究も防災をテーマに取り組み、祐一

市「マイスター」認定 生後1カ月に 震災を経験 学び深化に意欲

さんの助言を受けながら防災マップなどをまとめた。普段の備えや災害時の行動を学び、実践につなげる民間資格の「防災介助士」取得にも意欲を示す。

米沢さんが生後1カ月のとき、東日本大震災が発生した。一家でお宮参りをした後に地震があり、祖父母や叔父が津波で犠牲になった。仮設住宅での生活も経験した。

祐一さんは市街地に震災遺構として個人ビルを残し、語り部として希望者を案内する活動も続けている。「災害時にはまず自分の命を守ることが大切。同じように津波で犠牲になる人が出たはいけない」と強調。「今の気持ちをしっかりと持ち続けてほしい」と長女の頑張りを見守る。



キッズ防災マイスターの認定書とバッジを掲げる米沢多恵さん(左)と父祐一さん